

第5章 学生の受け入れ

1. 現状の説明

(1) 学生の受け入れ方針を明示しているか。

〈1〉大学全体

本学は、2008年に、大学入試委員会において、すべての学部学科の受け入れ方針を定め、文学研究科委員会と人間生活学研究科委員会において、研究科専攻の受け入れ方針を定めている。2011年には、大学入試委員会において、大学全体の学生の受け入れ方針として「金城学院大学アドミッション・ポリシー」を定めている。これらすべての方針は大学ホームページで公開している(5-1)。大学全体および学部学科の方針は、大学ホームページ「受験生ポータルサイト」および「入試ガイド」でも公表している(5-2、5-3 p.36)。現在では、学位授与方針と教育課程の編成・実施方針と合わせて、学生の受け入れ方針も学部長会で修正の確認を行っている(5-4)。

「金城学院大学アドミッション・ポリシー」は、建学の精神と教育方針を掲げた上で、受け入れ方針を示している。その内容は、以下の通りである。

金城学院大学は、キリスト教主義の精神にもとづき、「地の塩」「世の光」となって社会につくす品位ある女性を育成します。

本学では、自らの個性や才能を認識し、一人ひとりの可能性を発見し、強く、優しくあろうとするみなさんを援助するための教育をおこないます。各種の入学試験では、専門分野ごとの学修の基礎となる学力や、それを高め活かそうとする向上心が評価の対象となります。

本学の教育方針を理解し、さまざまな価値観と生活状況の並存した現代社会の一員として、多様な人びとと共生、協働するための知性と感性を身につけようとする学生を求めます。

この方針では、入学者選抜の評価対象と基準および求める学生像を明示している。特に、評価対象には「専門分野ごとの学修の基礎となる学力」が含まれており、本学として、修得しておくべき知識の内容と水準を設定していることを明示している。その詳細については、学部・研究科の項で述べることにする。

本学の入学試験には、一般入試、センター試験利用入試、センタープラス方式入試、一般公募制推薦入学選考、AO入試、指定校制推薦入学選考、内部推薦入学などの入試以外に、「その他入試」として海外帰国子女入試、外国人留学生入試、社会人入試および編入学試験があり、多様な学習経験と資質を持つ学生の受け入れを可能としている。大学ホームページ「受験生ポータルサイト」および「入試ガイド」には、それぞれの入試についての情報を掲載している。特に、AO入試については「金城学院大学でいかに学び、成長したいかなど、将来的な可能性まで含め総合的に判断します」と受け入れの基準を示した上で、AO入試を実施する学科の審査内容を明記している(5-5、5-3 pp.23-24)。AO入試以外についても、「入試のポイント」として、それぞれの入学試験の特徴を一覧にして、受験生にわかりやすく紹介している(5-3 pp.5-6)。

大学院の入学試験には、一般入試、社会人入試、外国人留学生入試、在学生特別入試、卒業生特別入試がある。「入学募集要項・願書」には、入学試験の詳細が掲載されているが、

第5章 学生の受け入れ

人間生活学研究科の社会人入試では、専門科目試験を研究業績審査に代替することができることが明記されており、受け入れの特別基準を周知している（5-6 p. 3）。

本学では、2008年に、障害のある学生の受け入れと修学支援に関する方針として「身体に障害を持つ学生の入学・修学に関するガイドライン」を定めている。ガイドラインは「受験に至るまでの段階」「入学に至るまでの段階」「入学後の段階」の3段階に分かれ、障害の種類程度と本人の能力適性に応じた受け入れと修学支援のあり方を明示している。「受験に至るまでの段階」では、受験希望者側からの問い合わせがあった場合、入試広報部が情報を収集した上で、入試担当学長補佐へ連絡する。入試担当学長補佐は受け入れルールに該当することを確認した上で、当該学科主任と調整し、修学の可否や修学上の条件を決定することになっている（5-7 pp. 4-6）。

〈2〉文学部

文学部では、「文学部アドミッション・ポリシー」において、教育方針と求める学生像を明示している。教育方針として「日本語運用能力と外国語運用能力」「音楽演奏と音楽指導」「言葉や音楽による教養」に重点を置く教育を行い、これらの能力を活かして、社会に貢献しようとする学生を求めることを掲げている（5-2）。

文学部の受け入れ方針を踏まえ、各学科では、求める学生像と修得しておくべき知識の内容を示している。修得しておくべき知識の内容は、日本語日本文化学科が「日本語読解・表現能力」、英語英米文化学科が「英語読解・表現能力」、外国語コミュニケーション学科が「英語や外国語の読解・表現能力」、音楽芸術学科が「音楽実技、基本的音楽理論とソルフェージュ能力」となっている。

〈3〉生活環境学部

生活環境学部でも、「生活環境学部アドミッション・ポリシー」において、教育方針と求める学生像を明示している。前半では、教育研究上の目的にある「豊かな生活」をキーワードとした教育方針を掲げ、後半では、「家族」「消費」「衣食住」「情報」などに興味がある学生を求めることを謳っている。

生活環境学部の受け入れ方針を踏まえ、各学科では、求める学生像と修得しておくべき知識の内容を示している。修得しておくべき知識の内容は、生活マネジメント学科と環境デザイン学科が「各科目の基礎的な学力」、食環境栄養学科が「栄養学の基礎となる生物や化学」の基礎知識となっている。

〈4〉現代文化学部

現代文化学部は、2011年度まで「現代文化学部アドミッション・ポリシー」において「現代における文化が、世界規模で複雑かつ多様な進化を伴いながら加速度的に形成され続ける中で、各社会において実践的な活躍ができる女性の育成を目指す学部です。幅広い教養や専門的な知識を基礎に、現代を生き抜く総合的な人間力を養います。多くの活動に対して自らが積極的にチャレンジする行動力のある人材を求めます。」と、教育方針と求める学生像を明示し、国際社会学科、情報文化学科、コミュニティ福祉学科の受け入れ方針も示していた。現在は、すでに学生募集を停止しているため、学部および各学科の受け入れ方

第5章 学生の受け入れ

針は公開していない。

〈5〉国際情報学部

国際情報学部でも、「国際情報学部アドミッション・ポリシー」において、教育方針と求める学生像を示している。前半では、「新しい国際的な視野や情報に基づく社会を創出するリーダーシップを備えた女性の育成を目指す学部」であることを掲げ、後半では、「現代社会の制度と構造を深く分析し、現代の諸問題の解決に実践的に取り組む」学生を求めることを明示している。

国際情報学部の受け入れ方針を踏まえ、各コースでは、求める学生像と修得しておくべき知識の内容を示している。修得しておくべき知識の内容としては、グローバルスタディーズコースでは「世界史」「地理」「現代社会」「国語」「英語」などに関心のあることが望ましいとし、メディアスタディーズコースでは「情報」「数学」「美術」「国語」「現代社会」などに関心のあることが望ましいとしている。

〈6〉人間科学部

人間科学部でも、「人間科学部アドミッション・ポリシー」において、教育方針と求める学生像を示している。教育方針としては、「“ヒト”を大きな視野で見つめ、理解する能力を持った専門家を育成」する学部であることを掲げ、求める学生像としては、「“人間”に強く関心を持ち、自分の幅を広げたいと考えている学生」であることを明示している。

人間科学部の受け入れ方針を踏まえ、各学科では求める学生像と修得しておくべき知識の内容を示している。現代子ども学科では、幅広い知識だけでなく、ボランティアなどの経験や子どもに対する積極的なコミュニケーション態度を身につけることを求め、多元心理学科では、主要5教科を十分に理解し、課外活動をできるだけ経験し、対人能力や共感性を高めることを求め、コミュニティ福祉学科では、社会系の科目に関心を持ち、福祉関連の科目を履修することを求めている。

〈7〉薬学部

薬学部は薬学科の1学科体制であるため、「薬学科アドミッション・ポリシー」に教育方針と求める学生像を示している。「医療現場及び地域社会で信頼される薬剤師を育てる学科」であることを教育方針として掲げ、修得しておくべき知識として「高校教育課程での理科科目の基礎力を有する」ことを、求める学生の条件として明記し、学生が高い学習意欲を持つ薬学ジェネラリストである薬剤師をめざすことを求めている。

〈8〉文学研究科

大学院については、受け入れ方針が大学ホームページで公開されているほか、「入学案内」では、教育方針と内容を周知するため、各専攻の「設置の趣旨及び目的」「博士課程（前期課程・後期課程）の内容」を明示している（5-1、5-8）。文学研究科では、「文学研究科アドミッション・ポリシー」において、求める学生像として「人文科学及び社会科学の諸分野」における広い視野と高度な専門性を身につけた研究者または専門的職業人をめざす学生を示している。

第5章 学生の受け入れ

文学研究科の受け入れ方針を踏まえ、各専攻でも求める学生像を示している。

前期課程では、国文学専攻が、日本の言語と文化についての研究を進め、研究者、社会人として活躍できる学生を求め、英文学専攻が、英米文学、英語学、英語教育、通訳翻訳の領域における高度な専門性を備えた研究者、職業人をめざす学生を求め、社会学専攻が「グローバル化に関わる国際社会と日本の課題」「現代におけるエイジングおよびケア」「生きづらさ・暴力とジェンダーに関わる社会問題」「情報やコミュニケーションの歴史的な展開およびその仕組みに関わる問題」に取り組む研究者、職業人をめざす学生を求めている。

後期課程では、国文学専攻が、日本の言語と文化についてより高度で専門的な学術研究を志し、研究者、社会人として活躍できる学生を求め、英文学専攻が、英文学研究または言語学研究において高次元の学術研究に収斂して深化し、研究者、教育者として活躍をめざす学生を求め、社会学専攻が、国際社会論、情報社会論、福祉社会論の専門領域において高次元の研究課題に収斂して深化し、研究者、教育者として活躍をめざす学生を求めている。

〈9〉人間生活学研究科

人間生活学研究科では、「人間生活学研究科アドミッション・ポリシー」において、求める学生像を、生活の価値の実現と質の向上をめざし、人間生活を充実発展させるための研究と実践を担う研究者、職業人をめざす学生としている。

人間生活学研究科の受け入れ方針を踏まえ、各専攻でも求める学生像を示している。

前期課程では、消費者科学専攻が、消費者をめぐる諸問題の解明と課題の解決ができ、消費者の立場から科学的に提言し対処できることをめざす学生を求め、人間発達学専攻が、一生に訪れる問題について発達学を基礎とする視点からとらえ、研究と実践を行う人材をめざす学生を求めている。

後期課程人間生活学専攻では、前期課程両専攻の研究領域を統合し、人間生活の諸問題について研究教育を深め、研究者、職業人として活躍することをめざす学生を求めている。

(2) 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。

〈1〉大学全体

本学では、大学入試委員会および学部入試委員会が連携して、学生募集および入学者選抜の各種業務を行っている。大学入試委員会は、学長、副学長、学部長、入試担当学長補佐、学部入試委員長、入試広報部長、入試広報担当課長、同係長で構成され、全学的視野に立った大学入試のあり方に関する調査研究、入試の運営の統括と関連事項の審議を目的とする(5-9 第2-3条)。また、学生募集と試験実施に関して大学全体で調整が必要な事項については、大学入試実施委員会で協議し、円滑な受け入れができるような体制が整えられている(5-10 第4条)。

学生募集については、毎年、大学入試委員会で全体計画を決定した上で、学部入試委員会において学部計画を具体化する。全体計画については、大学入試委員会は、入学試験に関する確認事項などの大学全体の課題や改組などの情報共有を図った上で、計画を立案す

第5章 学生の受け入れ

る。学生募集に関する主な活動としては、高校教員対象入試説明会、地区別入試説明会、高校訪問、オープンキャンパス、高校等への出前授業、インターネット、各種媒体を通じた広報などがある。いずれも大学入試委員会が管理責任を負いながら、学部入試委員会と入試広報部が密接に連携することで実施されている。

入学者選抜についても、問題作成、試験実施、合否判定まで、大学入試委員会および学部入試委員会が責任を負う体制となっている。すべての入学試験のうち、一般入試、センタープラス方式入試、一般公募制推薦入試（適性検査型）の問題作成は、大学一般入試問題作成委員会があたっている（5-11 第1条）。大学一般入試問題作成委員会は、大学入試委員会の下に設置された常設委員会であり、問題作成においては、学習指導要領に基づき、入学後の専門教育に対応できる学力の有無を判断できるよう留意し、前年度の難易度の妥当性についても、各科目の出題委員会において問題の評価と研究として毎年検証している（5-11 第5条）。AO入試および一般公募制推薦入試（小論文型および芸術型）、その他入試の問題作成および試験実施については、学部入試委員会の担当となるので、学部の項で説明する。

試験実施については、すべての入試実施要項が学部教授会で確認されており、試験を公正かつ適切に実施するよう努めている。一般入試、センタープラス方式入試、一般公募制推薦入試（適性検査型および小論文型）の場合は、大学全体で入試実施本部を設置し、当日の担当学部入試委員会が総務を務める。AO入試、外部推薦（指定校制）、一般公募制推薦入試（芸術型）、その他の入試では、学部ごとに入試実施本部を設置する。また、学科試験、小論文、面接、プレゼンテーションについては、その内容と水準が、「金城学院大学アドミッション・ポリシー」の「各種の入学試験では、専門分野ごとの学修の基礎となる学力や、それを高め活かそうとする向上心」が確認できるよう、大学全体と各学部で設計を進めている。

合否判定過程については、判定するそれぞれの段階で、公平性、適切性、透明性が担保されるような体制を整えている。一般入試、センター試験利用入試、センタープラス方式入試では、受験生は、受験日や受験科目を選択できる。そのため、合否判定に際しては、換算式を用いて各科目の得点を補正した得点率を用いて、判定基準の適切性を担保する。その上で、得点の序列に基づいた合否判定資料を作成するが、その資料には、受験生の氏名などの情報は記載されない。判定の手続きとしては、まず大学入試委員会において合否判定資料に基づき審議し、大学入試委員会原案を決定する。学部教授会は、この大学入試委員会原案に基づいて審議し、必要があれば一部を修正し決定する。このように、合否判定においては、大学全体での議論を経て、最終的に学部教授会で決定される判定手続きが行われている。

〈2〉文学部

文学部では、日本語日本文化学科、英語英米文化学科、外国語コミュニケーション学科でAO入試が実施されている。AO入試の募集については、入学試験要項に審査内容が掲載されているが、3学科とも書類審査、小論文、個人面接となっている（5-12 pp. 3-5）。個人面接は、日本語日本文化学科が作品紹介、英語英米文化学科と外国語コミュニケーション学科が「自己アピールを含む」となっている。個人面接の具体的なやり方は、入学試

第5章 学生の受け入れ

験要項に明記されており、受験生に混乱を生じさせないようにしている。

AO入試の小論文は、3 学科共通であり、文学部入試委員会で作成されている。一般公募制推薦入試（小論文型）およびその他入試の小論文は、それぞれの学科で求める基準が異なるため、3 学科それぞれ問題を作成している。音楽芸術学科では、一般公募制推薦入試（芸術型）およびその他入試の受験の際、ピアノ実技、声楽実技、管楽器実技から選択するが、その課題については、入学試験要項に明記されている（5-13 p. 31、5-14 pp. 21-22）。

AO入試の個人面接および外部推薦（指定校制）の面接では、それぞれガイドラインが作成されて学部内で基準が共有されており、公正な面接ができる体制を整えている。

〈3〉生活環境学部

生活環境学部では、生活マネジメント学科、環境デザイン学科でAO入試が実施されている。食環境栄養学科は、厚生労働省より、定員を厳守するように求められているため、AO入試、一般入試（後期）、編入学試験（一般・社会人）は実施していない。AO入試の募集については、入学試験要項に審査内容が掲載されているが、生活マネジメント学科は書類審査、プレゼンテーション、個人面接で審査し、環境デザイン学科は、書類審査、模擬授業後のレポート作成、個人面接（自己アピールを含む）となっている（5-12 pp. 6-7）。プレゼンテーション、模擬授業後のレポート作成、個人面接の具体的なやり方は、入学試験要項に明記されている。

一般公募制推薦入試（小論文型）およびその他入試の小論文は、それぞれの学科で求める基準が異なるため、3 学科でそれぞれ問題を作成している。

AO入試の個人面接および外部推薦（指定校制）の面接では、それぞれガイドラインが作成されて学部内で基準が共有されており、公正な面接ができる体制を整えている。

〈4〉現代文化学部

すでに学生募集を停止しているため、特記事項なし。

〈5〉国際情報学部

国際情報学部国際情報学科では、グローバルスタディーズコース、メディアスタディーズコースでAO入試が実施されており、両コースとも出願前書類審査、プレゼンテーション、個人面接を実施している（5-12 pp. 8-10）。出願前書類審査では、活動報告書と志望理由書を審査した上で、受験生に出願可否を通知し、出願を許可された受験生は、再度の書類審査に加え、プレゼンテーションと個人面接を行う。一般公募制推薦入試（小論文型）の小論文については、それぞれのコースが独自に問題を作成し、選考基準もコースごとに共有している。

AO入試のプレゼンテーションと個人面接については、それぞれのコースで審査基準が共有されており、外部推薦（指定校制）の面接では、学部内で基準が共有されており、公正な面接ができる体制を整えている。

〈6〉人間科学部

人間科学部では、現代子ども学科、コミュニティ福祉学科でAO入試が実施されている。

第5章 学生の受け入れ

AO入試の募集については、入学試験要項に審査内容が掲載されているが、現代子ども学科は書類審査、小論文、プレゼンテーションで審査し、コミュニティ福祉学科は、書類審査、小論文、プレゼンテーション、個人面接となっている（5-12 pp. 11-12）。プレゼンテーション、個人面接の具体的なやり方は、入学試験要項に明記されている。

〈7〉薬学部

薬学部薬学科では、一般公募制推薦入試（適性検査・面接型）を実施している。一般公募制推薦入試（適性検査・面接型）では、薬学部内で共有している4項目の基準に基づき、2名の教員が面接し選考している。4年次編入では、学力試験として薬学英語および専門科目を実施するが、各科目教員2名が学部3年次修了程度の内容の問題を作成し、面接では、薬学部内で共有している5項目の基準に基づき、4名の教員が面接し選考している。

〈8〉文学研究科

文学研究科の一般入試では、筆記試験と口述試験を行う（5-6 pp. 5-6）。筆記試験としては、語学と専門科目の試験を行う。語学については、英文学専攻が後期課程で、社会学専攻が前期課程、後期課程とも英語を課している。

特別な入試として、社会人入試、外国人留学生入試、在学生特別入試、卒業生特別入試がある。社会人入試では、筆記試験と口述試験を行う（5-6 pp. 10-11）。筆記試験は、国文学専攻と社会学専攻が小論文、英文学専攻が英語小論文を課す。外国人留学生入試は、筆記試験と口述試験を行う（5-6 pp. 15-16）。筆記試験としては、日本語による小論文と専門科目の試験を行う。在学生特別入試においては、口述試験および書類によって審査する（5-15 pp. 3-6）。また、卒業生特別入試においては、筆記試験と口述試験に加え、書類によって審査する（5-15 p. 11）。

問題作成と試験の実施については、筆記試験はそれぞれの科目につき原則として2名の教員が出題をし、口述試験は原則として3名以上の教員が担当しており、公正な選考ができるようにしている。合否判定については、各専攻の原案に基づき、研究科委員会で審議し、決定されている。

〈9〉人間生活学研究科

人間生活学研究科の一般入試では、筆記試験と口述試験を行う（5-6 pp. 7-9）。筆記試験としては、外国語（英語）と専門科目の試験を行う。一般入試以外に、社会人入試、外国人留学生入試、在学生特別入試、卒業生特別入試がある。社会人入試では、筆記試験（専門科目）と口述試験を行う（5-6 pp. 12-14）。外国人留学生入試は、筆記試験（専門科目）と口述試験を行う（5-6 pp. 17-19）。ただし、前期課程の臨床心理学分野のみ、筆記試験と口述試験の2段階選考を実施している。

在学生特別入試においては、前期課程は口述試験および書類によって審査し、臨床心理学分野のみこれに筆記試験が加わる（5-15 pp. 7-10）。後期課程は口述試験のみである。また、卒業生特別入試においては、筆記試験（小論文）と口述試験に加え、書類によって審査する（5-15 pp. 12-13）。

問題作成と試験の実施については、筆記試験はそれぞれの科目につき原則として2名

第5章 学生の受け入れ

の専門分野の教員が出題する。口述試験は、出題した2名の教員に加え、専門分野の異なる教員1名が加わって実施し、公正な選考ができるようにしている。合否判定については、各専攻の原案に基づき、研究科委員会で審議し、決定されている。

(3) 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

〈1〉大学全体

2013年5月1日現在、本学の収容定員4935名に対し、在籍学生数は5449名であり、収容定員に対する在籍学生比率は1.11倍となっている(5-16)。入学者の選抜にあたり、本学では、施設に見合う適切な収容定員となるよう、入学定員を設定してきた。ここ5年では、2度の入学定員見直しをしている。1回目は、2009年に生活環境情報学科の入学定員を80名から70名に、国際社会学科を85名から80名、情報文化学科を95名から90名、福祉社会学科を85名から75名にそれぞれ減員し、現代子ども学科の入学定員を90名から120名に増員した。2回目は、2013年度に入学定員50名の芸術・芸術療法学科の学生募集を停止し、入学定員45名の音楽芸術学科を設置し、大学全体の入学定員は1145名から1140名となった。

この入学定員に基づき、大学入試委員会および学部入試委員会では、適切な入学者数を得るよう、求められる得点率水準の範囲内で、過去数年間の合格者/入学者比率(いわゆる歩留まり)を参照しつつ合格者数を決定している。その際には、各年度の入学者数が入学定員の110%以内に収まるよう心がけている。その結果、大学全体の入学者数(4月1日現在)は、2009年度1323名(入学定員1145名の115.5%)、2010年度1328名(入学定員1145名の116.0%)、2011年度1314名(入学定員1145名の114.8%)、2012年度1257名(入学定員1145名の109.8%)、2013年度1278名(入学定員1140名の112.1%)となっている。このように、この5年ほどは110%から115%までの範囲を推移している。

入試種別ごとの募集定員についても、本学の受け入れ方針と受験者の動向を見極めながら、毎年度検討し、必要に応じて調整してきた。大学全体で学力試験を重視する姿勢を示すため、一般入試、センター試験利用入試に加えて、2010年度入試からはセンタープラス方式入試を導入した。また、各学科では、2012年度入試からAO入試の募集定員の削減と一般公募制入試(適性検査型)への移行を行い、2014年度入試から一般公募制入試(小論文型)の募集定員の削減と一般公募制推薦入試(適性検査型)への移行を行っている。過去5年間を見ると、すべての合格者に対する一般入試、センター試験利用入試、センタープラス方式入試の学力試験によって判定する入試に合格した入学者比率(以下、学力試験による入学者比率)は、2009年度が39.3%、2010年度が31.9%、2011年度が27.5%、2012年度が33.6%、2013年度が33.0%となっている。推薦入試などの出願状況や合格者の歩留まりの状況によって、この数字は大きく変動してしまうが、大学入試委員会および学部入試委員会では、学力試験による入学者比率が、適正な範囲になるように努めている。

〈2〉文学部

文学部の入学定員は、2012年度まで日本語日本文化学科70名、英語英米文化学科90名、外国語コミュニケーション学科80名の240名であった。2013年度には、音楽芸術学

第5章 学生の受け入れ

科 45 名を加え、285 名となっている。文学部の入学者数（4 月 1 日現在）は、2009 年度 311 名（入学定員 240 名の 129%）、2010 年度 271 名（入学定員 240 名の 113%）、2011 年度 263 名（入学定員 240 名の 110%）、2012 年度 273 名（入学定員 240 名の 114%）、2013 年度 306 名（入学定員 285 名の 107%）となっており、2009 年度を除いて、大学入試委員会が目標とする 110%前後で推移しており、ほぼ適正な学生募集ができています。

また、学力試験による入学者比率は、2009 年度が 32.4%、2010 年度が 20.2%、2011 年度が 25.4%、2012 年度が 34.4%、2013 年度が 34.6%となっており、35%を下回るが、2010 年度と 2011 年度は特に低くなっています。

〈3〉生活環境学部

生活環境学部の入学定員は、2009 年度以降変更がなく、現在は生活マネジメント学科（2009 年度のみ生活環境情報学科）70 名、環境デザイン学科 80 名、食環境栄養学科 80 名の 230 名となっている。生活環境学部の入学者数（4 月 1 日現在）は、2009 年度 279 名（入学定員 230 名の 121.3%）、2010 年度 263 名（入学定員 230 名の 114.4%）、2011 年度 262 名（入学定員 230 名の 113.9%）、2012 年度 234 名（入学定員 230 名の 101.7%）、2013 年度 245 名（入学定員 230 名の 106.5%）となっており、2010 年度以降は、大学入試委員会が目標とする 110%を前後しており、適正な学生受け入れができています。

また、学力試験による入学者比率は、2009 年度が 37.6%、2010 年度が 31.2%、2011 年度が 22.9%、2012 年度が 33.3%、2013 年度が 31.4%となっており、2010 年度以降は、35%を下回る状況が続いている。

〈4〉現代文化学部

現代文化学部の入学定員は、2009 年度から 2011 年度まで変更がなく、国際社会学科 80 名、情報文化学科 90 名、コミュニティ福祉学科（2009 年度のみ福祉社会学科）75 名の 245 名であった。現代文化学部の入学者数（4 月 1 日現在）は、2009 年度 286 名（入学定員 245 名の 116.7%）、2010 年度 302 名（入学定員 245 名の 123.3%）、2011 年度 311 名（入学定員 245 名の 126.9%）となっており、大学入試委員会が目標とする 110%を超えて、学生を受け入れている状況があった。

また、学力試験による入学者比率は、2009 年度が 40.9%、2010 年度が 37.7%、2011 年度が 21.5%となっている。

〈5〉国際情報学部

国際情報学部国際情報学科の入学定員は、2012 年度設置の際に、グローバルスタディーズコース 80 名、メディアスタディーズコース 90 名の 170 名である。国際情報学部の入学者数（4 月 1 日現在）は、2012 年度 198 名（入学定員 170 名の 116.5%）、2013 年度 191 名（入学定員 170 名の 112.4%）となっており、大学入試委員会が目標とする 110%を若干超えて、学生を受け入れている。

また、学力試験による入学者比率は、2012 年度が 31.3%、2013 年度が 23.3%となっており、35%を下回る状況となっている。

第5章 学生の受け入れ

〈6〉人間科学部

人間科学部の入学定員は、2009年度が現代子ども学科 120名、心理学科社会心理学専攻 60名、心理学科臨床心理学専攻 50名、芸術・芸術療法学科 50名の 280名であった。その後、2011年度には、心理学科の募集停止と多元心理学科の設置があったが、入学定員に変更がなく、2012年度には、現代文化学部からコミュニティ福祉学科が移動したことにより、75名が加わり、355名となった。2013年度には、芸術・芸術療法学科の学生募集停止にともない、305名となっている。人間科学部の入学者数（4月1日現在）は、2009年度 329名（入学定員 280名の 117.5%）、2010年度 349名（入学定員 280名の 124.6%）、2011年度 324名（入学定員 280名の 115.7%）、2012年度 401名（入学定員 355名の 113.0%）、2013年度 340名（入学定員 305名の 111.4%）となっており、大学入試委員会が目標とする 110%を若干上回る状況が続いている。

また、学力試験による入学者比率は、2009年度が 42.6%、2010年度が 28.9%、2011年度が 31.8%、2012年度が 33.9%、2013年度が 29.2%となっており、2010年度以降は、35%を下回る状況が続いている。

〈7〉薬学部

薬学部薬学科の定員は、150名である。薬学部の入学者数（4月1日現在）は、2009年度 118名（入学定員 150名の 78.7%）、2010年度 143名（入学定員 150名の 95.3%）、2011年度 154名（入学定員 150名の 102.7%）、2012年度 151名（入学定員 150名の 100.7%）、2013年度 196名（入学定員 150名の 134.5%）となっている。近年は安定的な学生募集ができるようになったが、2013年度は予想外の歩留まりであったため、大学入試委員会が目標とする 110%を大幅に上回った。

また、学力試験による入学者比率は、2009年度が 49.2%、2010年度が 50.3%、2011年度が 41.6%、2012年度が 34.4%、2013年度が 46.4%となっており、他学部に比べると、一定の比率を保つことができていると言える。

〈8〉文学研究科

文学研究科前期課程の入学定員は 15名である。前期課程の入学者数（5月1日現在）は、2009年度 14名（入学定員 15名の 93.3%）、2010年度 10名（入学定員 15名の 66.7%）、2011年度 13名（入学定員 15名の 86.6%）、2012年度 7名（入学定員 15名の 46.6%）、2013年度 12名（入学定員 15名の 80.0%）となっている。

また、後期課程の定員は 6名である。後期課程の入学者数（5月1日現在）は、2009年度 3名（入学定員 6名の 50.0%）、2010年度 1名（入学定員 6名の 16.6%）、2011年度 2名（入学定員 6名の 33.3%）、2012年度 3名（入学定員 6名の 50%）、2013年度 1名（入学定員 6名の 16.6%）となっている。

文学研究科の収容定員は、前期課程 30名、後期課程は 18名であり、在学学生数（2013年 5月 1日現在）は前期課程 22名（収容定員 30名の 73.3%）、後期課程 10名（収容定員 18名の 55.6%）となっている。

〈9〉人間生活学研究科

第5章 学生の受け入れ

人間生活学研究科前期課程の入学定員は16名である。前期課程の入学者数（5月1日現在）は、2009年度27名（入学定員16名の168.8%）、2010年度15名（入学定員16名の93.8%）、2011年度19名（入学定員16名の118.8%）、2012年度14名（入学定員16名の87.5%）、2013年度11名（入学定員16名の68.8%）となっている。

また、後期課程の定員は3名である。後期課程の入学者数（5月1日現在）は、2009年度5名（入学定員3名の166.7%）、2010年度1名（入学定員3名の33.3%）、2011年度1名（入学定員3名の33.3%）、2012年度0名、2013年度4名（入学定員3名の133.3%）となっている。

人間生活学研究科の収容定員は、前期課程32名、後期課程は9名であり、在学学生数（2013年5月1日現在）は前期課程29名（収容定員32名の90.6%）、後期課程11名（収容定員9名の122.2%）となっている。

（4）学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。

〈1〉大学全体

アドミッション・ポリシーについては、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーと密接な関係があるため、現在では学部長会において検証し、必要があれば修正して公開している。学生募集および入学者選抜については、大学入試委員会と学部入試委員会が中心となって、組織的に定期的検証を行ってきた。例えば、一般入試、センター試験利用入試、センタープラス入試の募集定員は、2009年度の674名から2013年度の685名と増員している。これは学力試験を重視する方針を学部入試委員会が具体化した結果だと言える。また、大学全体の受け入れ計画として、大学入試委員会で2011年度以降の中期的な指針として、「入試5か年計画」が策定されている。ただし、学生の受け入れは、受験動向など外部の要因に大きく影響される部分があるため、計画は毎年検証され、必要があれば計画を一部修正している。学力試験による入学者を増やすため、2015年度入試からAO入試を廃止するが、これは「入試5か年計画」の前倒し措置である。このように、学部学科の学生募集と入学者選抜は計画的に実施されている。

学部学科の受け入れに対する検証も、大学入試委員会の場で検証されている。検証の取り組みは「入試種別ごとの確保目標数」と「検証と対応」によって行われる。毎年、すべての学科は「入試種別ごとの確保目標数」を設定し、学部入試委員会での議論を経て、最終的に大学入試委員会で目標が確認され、学科は目標達成をめざして、学生募集と入学者選抜を行う。すべての入学者選抜が終わると、その目標が達成できたか、学科ごとに「検証と対応」を作成し、同じように学部入試委員会における議論を経て、大学入試委員会で検証される。大学入試委員会が、学科の検証と対応に不備な点があると判断すれば、学科に再検討と修正を要請することもある。検証を踏まえて、学科は次年度の「入試種別ごとの確保目標数」を作成することになる。このように、大学入試委員会では、目標設定と検証活動を通じて、大学全体の学生受け入れが適正に行われるよう管理している。

大学自己評価委員会の活動目標が一部変更されたことにもない、大学入試委員会も、2013年度から活動目標を設定し、大学自己評価委員会の検証を受けることになった（5-16

第5章 学生の受け入れ

「**大学入試委員会報告**」)。これにより、学生受け入れに関する検証が、大学入試委員会と学部入試委員会だけでなく、大学全体で行うことが可能となった。

〈2〉文学部

文学部では、大学入試委員会「入試 5 か年計画」の方針に従い、「入試種別ごとの確保目標数」と「検証と対応」の作成を通じて、大学入試委員会の検証を受けている。例えば、文学部の一般入試、センター試験利用入試の募集定員は、2009年度は142名であったのが、2013年度のセンタープラス方式入試（2010年度より導入）を加えた募集定員は、172名（音楽芸術学科を除けば146名）に増えている（**大学基礎データ**）。これは、大学入試委員会が学力試験を重視する方針に従った措置だと言える。

これ以外に、2013年度には「文学部の近未来を考える若手教員の会」が文学部の将来構想を考えているが、「文学部主催のイベント」として、文学部の魅力を受験生へアピールする活動についても触れており、今後はその具体化に向け、さらに検討を進める予定である（5-17）。

〈3〉生活環境学部

文学部と同じく、生活環境学部も大学入試委員会の検証を受けている。その結果として、生活環境学部の一般入試、センター試験利用入試の募集定員は、2009年度は129名であったのが、2013年度のセンタープラス方式を加えた募集定員は132名に増えている。

また、環境デザイン学科および食環境栄養学科では、学科独自の試みとして、大学入試委員会で検証を受ける前に、数年間の入試動向データに基づいて、学生の受け入れ状況を分析し検証している。

〈4〉現代文化学部

すでに学生募集を停止しているため、特記事項なし。

〈5〉国際情報学部

国際情報学部は、現代文化学部国際社会学科と情報文化学科を母体とするが、設置前には、学科一括で募集するか、コース別で募集するか、検討を行っている。結果として、コース別募集を選択したが、現代文化学部の学生受け入れを十分に検証した上で、新学部における学生の受け入れ方法を決定している。

設置後は、前述文学部と同じく、国際情報学部も大学入試委員会の検証を受けている。その結果として、同じ定員の現代文化学部国際社会学科、情報文化学科の一般入試、センター試験利用入試の募集定員は、2009年度は95名であったが、2013年度のセンタープラス方式を加えた国際情報学部の募集定員は、103名に増えている。

〈6〉人間科学部

前述文学部と同じく、人間科学部も大学入試委員会の検証を受けている。人間科学部の場合、学科編成が大きく変化しているため、学力試験をともなう入試の募集定員を単純比較するのが難しい。

第5章 学生の受け入れ

〈7〉薬学部

前述文学部と同じく、薬学部も大学入試委員会の検証を受けている。その検証では、薬学部の学力試験による入学者比率が、他の学部に比べ高く、学力試験を重視する方針に沿って成果を上げていると判断されている。2009年度以降、一般入試、センター試験利用入試、センタープラス方式入試の募集定員は、93名のままで変わっていない。

〈8〉文学研究科

文学研究科では、学生募集および入学者選抜に関する検証は、研究科長および研究科入試委員3名が行っている。検証結果は専攻主任会議、研究科委員会などに報告され、適正な受け入れができるよう議論をしている。このほかに、FD活動としても、学生の受け入れを検証している。第3章で触れたように、2013年度には「受験生獲得の方策について」というテーマで、文学研究科FD委員会において検討を行っている。このように、文学研究科は、学生の受け入れを検証しており、その結果として、第4章で言及したような長期履修制度が生まれた。

〈9〉人間生活学研究科

人間生活学研究科の学生募集および入学者選抜に関する検証は、専攻主任会議、基本問題検討委員会、研究科委員会などで行われている。また、長期履修制度は、文学研究科と共同して検討し、導入に至っており、人間生活学研究科の検証結果も反映したものと言える。

2. 点検・評価

●基準5「学生の受け入れ」の充足状況

本学では、大学全体および学部・研究科すべてにアドミッション・ポリシーを設定し、大学入試委員会と各学部の入試委員会が連携して、方針に基づく学部の学生募集と入学者選抜を行っている。今のところ、収容定員に対する在籍学生はほぼ適切な比率となっているが、学力試験をとともなう入学者比率は全体的に低い状況となっている。こうした現状に対しては、「入試5か年計画」に基づき改善が進められている。以上の点から、本学は求められる基準を一部充足できていないと判断できる。

①効果が上がっている事項

〈1〉大学全体

「金城学院大学アドミッション・ポリシー」では、建学の精神を踏まえた上で、求める学生像を明示している。また、障害のある学生受け入れに関しては、受験前から卒業までのように支援するか定めた方針があり、一貫した支援を行う体制が整えられている。

学部の学生募集と入学者選抜に関しては、大学入試委員会が中心的な役割を果たしてお

第5章 学生の受け入れ

り、一般入試などについては、大学一般入試作成委員会が別に設置されており、大学入試委員会に対する独立性がある程度保たれている。また、合否判定に際しては、大学入試委員会原案に基づき、学部教授会が審議し決定しており、大学全体で、責任持って適切な入学者選抜ができています。このように、大学全体の学生受け入れに関しては、大学入試委員会が全体管理と組織間調整の役割を果たす体制が機能している。

入学定員に対する入学者数は、ほぼ 110%に抑えられており、収容定員に対する在籍学生比率も 1.11 倍となっている。

定期的な検証に関しては、大学入試委員会において中期的な指針である「入試 5 年計画」が確認され、それに基づいて学生の受け入れが行われている。また、学部学科においても「入学種別ごとの確保目標数」「検証と対応」を作成し、大学入試委員会で確認されている。これらの活動から、学生の受け入れにおいても、内部質保証が機能していると判断できる。

〈2〉文学部

AO入試および外部推薦（指定校制）の面接については、学部でガイドラインを制定しており、適切性と公正性が保たれている。

〈3〉生活環境学部

食環境栄養学科については、教育内容として、特に科目名が挙げられているのは、具体化された方針として評価できる。AO入試および外部推薦（指定校制）の面接については、学科ごとにガイドラインを制定しており、適切性と公正性が保たれている。

〈4〉薬学部

学力試験による入学者比率は、ほぼ 40%を超えており、学力試験を特に重視している学部であることが確認できる。

〈5〉文学研究科

口述試験には、原則として 3 名以上の教員が担当し、公正な選抜ができるようにしている。

〈6〉人間生活学研究科

口述試験には、専門分野以外の教員が 1 名加わり、公正な選抜ができるようにしている。

②改善が必要な事項

〈1〉大学全体

学生の受け入れ方針の公開状況については、学部がさまざまな場で公開されているのに対して、研究科の公開状況は十分でない。また、学部の学生募集と入学者選抜が大学入試委員会で管理されているのに対し、大学院の学生募集と入学者選抜が研究科ごとに行われており、大学全体で管理できる体制となっていない。

第5章 学生の受け入れ

大学全体として、学力試験による入学者比率を増やす努力はしているが、現状では十分な成果を上げていない状況が続いている。

〈2〉文学部

学力試験による入学者比率は、35%に近い年度もあるが、低い状況が続いているので一層の努力が求められる。特に30%以下となっているのが複数年度あるので、一般試験、センター利用入試、センタープラス方式入試の入学者を確保する努力を継続的に行う必要がある。

〈3〉生活環境学部

生活マネジメント学科と環境デザイン学科の受け入れ方針では、「各科目の基礎的学力」となっており、修得しておくべき教育内容として具体性に欠ける。学力試験による入学者比率は、35%に近い年度もあるが、低い状況が続いているので一層の努力が求められる。

〈4〉国際情報学部

学力試験による入学者比率が、低い状況であるので、一層の努力が求められる。

〈5〉人間科学部

現代子ども学科と多元心理学科の受け入れ方針では、「幅広い知識」「主要5教科」となっており、修得しておくべき教育内容として具体性に欠ける。学力試験による入学者比率は、35%に近い年度もあるが、低い状況が続いているので、一層の努力が求められる。

〈6〉薬学部

入学定員に対する入学者は、年度によってばらつきがあるので、より安定的な受け入れをめざす必要がある。

〈7〉文学研究科

研究科の受け入れ方針については、大学ホームページの「3つのポリシー」以外に方針を公表している媒体が確認できず、周知が十分でない。また、修得しておくべき教育内容が具体的でない。社会学専攻については、求める学生像の記述が国文学専攻と英文学専攻と大きく異なり、統一がとれていない。研究科の学生受け入れに関する体制が規程から確認できない。後期課程の入学者数は、入学定員の半ばに満たない状態が続いているので、より安定的な受け入れをめざす必要がある。

〈8〉人間生活学研究科

研究科の受け入れ方針については、大学ホームページの「3つのポリシー」以外に方針を公表している媒体が確認できず、周知が十分でない。また、修得しておくべき教育内容が具体的でない。研究科の学生受け入れに関する体制が規程から確認できない。後期課程の入学者数は、年度によってばらつきがあるので、より安定的な受け入れをめざす必要がある。

第5章 学生の受け入れ

3. 将来に向けた発展方策

①効果が上がっている事項

〈1〉大学全体

大学全体および学部・研究科の方針を、受験生と社会向けの広報に掲載し、学生の受け入れに対する本学の姿勢を周知していく。学生募集、試験実施、合否判定については、公正性と適切性を担保する努力をし続けなければならないので、さらに大学入試委員会の役割を大きくすることで、大学全体で学生の受け入れにおける公正性と適切性を担保していく。特に、入学者数を適正にすることは、教育の質に関わるので、110%を超えないよう、綿密な検証をしていく。定期的な検証に関しては、受験動向を見ながら、大学入試委員会で「入試5か年計画」と「入学種別ごとの確保目標数」「検証と対応」を行うとともに、大学自己評価委員会の検証を活用して、入試業務を改善していく。

〈2〉文学部

AO入試の廃止を機に、外部推薦（指定校制）の面接についても、その適切性について、文学部入試委員会で再度の確認を行う。2014年度の活動目標には、「(1) 高校生に文学部の魅力を伝える発信活動の企画と立案」を掲げ、適正な学生受け入れを行っていくために、答申を踏まえ、文学部としての魅力作りを推進していく（5-17「**文学部自己評価委員会活動目標**」、5-18）。

〈3〉生活環境学部

AO入試の廃止を機に、外部推薦（指定校制）の面接についても、その適切性について、各学科で再度の確認を行う。

〈4〉薬学部

薬学部は、他の学部に比べて、学力試験による入学者比率が高いので、この傾向を今後も維持する。それだけでなく、さらにその比率を高めることをめざし、受け入れ方針が求める基礎能力をもち薬学教育を全うできる学生を、受け入れ続けられるようにする。

〈5〉文学研究科

学生募集および入学者選抜に関する検証は、研究科長および研究科入試委員3名を中心に行っているが、入試委員の規程による裏付けがないので、規程化などによって、公正な選抜が制度的に担保できることをめざしていく。

〈6〉人間生活学研究科

学生募集および入学者選抜に関する検証は、専攻主任会議、基本問題検討委員会、研究科委員会で行われており、公正で適切な選抜が行われている。今後も、この体制を維持しつつ、規程によって業務の裏づけを進めていく。

第5章 学生の受け入れ

②改善が必要な事項

〈1〉大学全体

大学院の学生の受け入れに関しては、両研究科の調整を進め、大学院としての統一した受け入れ体制の構築をめざす。学力試験による入学者比率を高めるため、2014年度の大学入試委員会活動目標には、「(1)一般入試、センター試験利用入試による入学者割合の適正化」を項目として立てる(5-16「**大学入試委員会活動目標**」)。すでに決定したAO入試廃止にともない、その募集定員を、一般入試、センター試験利用入試、センタープラス方式入試などに振り分け、学力試験による入学者比率を高めていく。

〈2〉文学部

学力試験による入学者比率は、35%を超えられないが、一方で、一般入試(前期)では、2科目型から3科目型への受験生の傾斜が進んできている。このことは学力試験を重視する受験生が増加していることを示していると考えられるので、募集定員を一般入試へ振り分けることを一層進め、文学部として学力試験を重視する姿勢を打ち出していく。

〈3〉生活環境学部

受け入れ方針については、わかりやすいものとなるよう、生活環境学部入試委員会と学科会議で協議しながら検討する。特に生活マネジメント学科と環境デザイン学科の受け入れ方針については、修得しておくべき教育内容を具体化することを早急に実現する。また、学力試験による入学者比率を高めるため、募集定員を一般入試やセンター試験利用入試などへさらに振り分けていく。

〈4〉国際情報学部

学力試験による入学者比率を高めるためには、一般入試やセンター試験利用入試の受験者に、国際情報学部がほかの学部学科との違いを明確に示す必要がある。そのためには、教育研究の内容をより明確な形で提示することが必要なので、教授会などで話し合いを進めていく。

〈5〉人間科学部

3学科とも、学力試験による入学者比率が低い傾向が続いているので、さらに比率を高めるため、募集定員を一般入試やセンター試験利用入試へさらに振り分けていく。

〈6〉薬学部

薬学部の受験者数は、景気動向や資格取得志向の動きに左右されるため、学生募集についても定員割れや大きく定員を上回る受け入れも経験している。安定的な学生の受け入れを実現するため、2014年度の活動目標には、「(6)志願者増対策と入学定員確保」を掲げ、広報活動を通して、薬学部の理念と教育の特色を社会へ周知することで、魅力ある薬学部として評価される努力を行っていく(5-16「**薬学部自己評価委員会活動目標**」)。

第5章 学生の受け入れ

〈7〉文学研究科

3 専攻の受け入れ方針については、記述の統一を早急に検討し、大学ホームページだけでなく、入学案内や入学説明会などでも方針を、周知していく。後期課程入学定員が充足できないのは、当該領域における研究職募集の減少傾向が原因と思われる。定員充足のため、研究職以外のキャリア開発も可能か、研究科委員会などで検討を開始する。

〈8〉人間生活学研究科

人間生活学研究科の入学定員は、前期課程 16 名、後期課程 3 名であるが、現実には入学者数の変動は大きく、定員通りの受け入れができていない。定員通りの受け入れを実現するために、広報活動を一層強化することで、卒業生を含めた本学からの受験と他大学からの受験を増やしていくことを考える。

4. 根拠資料

5-1 大学HP「3つのポリシー」(既出 資料 4-1)

(<http://www.kinjo-u.ac.jp/about/policy.html>)

5-2 大学HP「入試情報 アドミッション・ポリシー」

(<http://www.kinjo-gakuin.net/nyushi/admission/index.html>)

5-3「入試ガイド 2014」

5-4「2013年10月16日学部長会議事録」(アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーについて)(既出 資料 4-3)

5-5 大学HP「入試情報 入試要項AO入試」

(<http://www.kinjo-gakuin.net/nyushi/daigaku/ao.html>)

5-6「金城学院大学大学院 2014 年度入学募集要項・願書」

5-7「身体に障害を持つ学生の入学・修学に関するガイドライン」

5-8「金城学院大学大学院 2014 年度入学案内」

5-9「金城学院大学大学入試委員会規程」

5-10「金城学院大学大学入試実施委員会規程」

5-11「金城学院大学大学一般入試問題作成委員会規程」

5-12「金城学院大学 2014 年度入学試験要項 AO入試」

5-13「金城学院大学 2014 年度入学試験要項 一般公募推薦入学・一般入試(前期)(後期)センタープラス方式入試・大学入試センター試験利用入試(前期)(後期)」

5-14「2014 年度入学試験要項・願書 一般編入学(3年次)・社会人編入学(3年次)・薬学部一般編入学(4年次)・社会人入学・海外帰国子女入学・外国人留学生入学」

5-15「2014 年度金城学院大学大学院 在学生特別入試・卒業生特別入試 入学募集要項・願書」

5-16「2014 年 3 月 5 日大学自己評価委員会資料(2013 年度活動報告・2014 年度活動目標)」(既出 資料 1-36)

第5章 学生の受け入れ

- 5-17 「文学部の近未来を話し合う若手教員の会答申」(既出 資料 1-31)
- 5-18 「入試ガイド 2013」
- 5-19 「金城学院大学大学院 2013 年度入学募集要項・願書」
- 5-20 「金城学院大学大学院 2013 年度入学案内」(既出 資料 1-37)
- 5-21 「金城学院大学 2013 年度入学試験要項 A O 入試」
- 5-22 「金城学院大学 2013 年度入学試験要項 一般公募推薦入学・一般入試(前期)(後期)センタープラス方式入試・大学入試センター試験利用入試(前期)(後期)」
- 5-23 「2013 年度入学試験要項・願書 一般編入学(3 年次)・社会人編入学(3 年次)・薬学部一般編入学(4 年次)・社会人入学・海外帰国子女入学・外国人留学生入学」
- 5-24 「2013 年度金城学院大学大学院 在学生特別入試・卒業生特別入試 入学募集要項・願書」